

令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和2年(2020年)10月22日
山口県病害虫防除所

1 病害虫名 シソ苗立枯病(仮称)
病原菌: *Pythium myriotylum*

2 作物名 シソ

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

- (1) 発生確認月日: 令和元年10月2日
- (2) 発生地域: 萩市
- (3) 発生状況: 育苗中のシソの苗において、根部から地上部にかけて水浸状に腐敗し倒伏する症状が確認された(図1)。山口県病害虫防除所で診断を行ったところ、*Pythium*属菌による立枯れ症状と判明した。菌を分離し、大阪府立大学の東條元昭教授に同定依頼を行った結果、国内ではきゅうり、さといも、トマト等で発生しているが、シソにおける発生報告の無い *Pythium myriotylum* と同定された。

5 本病の特徴

- (1) 病徴
育苗初期に茎の地際部が水浸状に腐敗して倒伏する。多湿の場合、被害部には白色綿毛状の菌叢が発生する(図2)。
- (2) 病原菌の特徴
病原菌は糸状菌の一種で卵菌類に属し、耐久体として卵胞子を形成する(図3)。また、遊走子嚢から球嚢と呼ばれる器官を形成し、その中に作られた遊走子を放出して感染を拡大する。最適生育温度は35℃~38℃である。
- (3) 宿主
*P. myriotylum*の宿主範囲は広く、野菜類、花き類等の多くの作物を侵す。

6 発生地域における今後の防除対策

- (1) 育苗用資材を次亜塩素酸カルシウム剤等で消毒を行う。
- (2) 育苗には無病培土を使用し、外部からの菌の持ち込みがないよう栽培環境に注意する。
- (3) 施設が高温・多湿にならないよう、換気を行う。



図1 苗の立枯れ症状



図2 罹病植物上に発生した菌叢

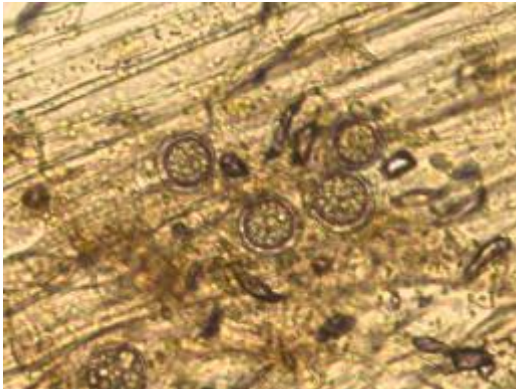


図3 罹病組織中に形成された卵胞子